

## 部会長巻頭言

～就任から半年が過ぎて～

つい先日部会長に就任したと思っていたら、気がつくともう半年が経っていました。社会の大きな変化が続く最近、会員の皆様も慌ただしい毎日を過ごされていることと存じます。

東日本大震災や福島原発事故の後、いろいろな学会が事後処理問題や災害対策・エネルギー問題などに対して提言の取りまとめや関連行事の企画を実行しています。筆者が所属している多くの学会で、学会誌の特集や講演会などで関連の企画がなされており、学会の社会貢献の必要性の意識が高まっているのを感じます。

本部会においても、上ノ山前部会長のもと、「震災復興への粒子・流体プロセス工学的アプローチ」と題した部会セミナーが昨年開催されました。本企画は学会誌「化学工学」でも取り上げられ、本年11月号(皆様のお手元に届いていると思います)に小特集として掲載されています。是非ご一読下さい。社会や自然現象の変動が、これまでにない新たな問題を引き起こすことは十分考えられます。これからも部会あるいは部会を超えた横断的な立場で、社会貢献を行っていくことが重要と思われまます。

一方、本部会では、分科会を中心に個別の学術・技術領域の活発な活動が継続的になされています。前述の社会貢献も個別の高度な知見と技術があってこそ達成できるもので、引き続き積極的な分科会活動をお願い致します。「化学工学」11月号には部会便りとして、3つの分科会(ミキシング技術、熱物質流体工学、粉体プロセス)の活動が紹介されています。

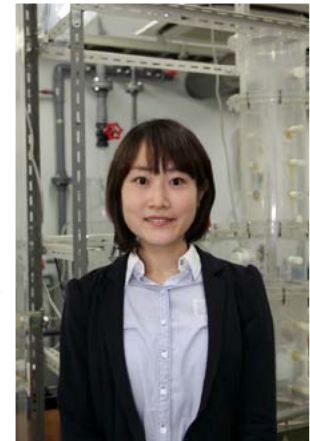
最後になりますが、部会事務局では、部会員の分科会所属の情報に一部明確でない部分があり、本年度中に一度所属分科会の確認を行う予定です。ご協力をお願い致します。またこの機会に、部会および分科会にいつそうの高い所属意識を持ってもらい、積極的な活動参加をお願いしたいと存じます。

(部会長・梶原稔尚(九州大学教授))

## 2014年度 化学工学会部会 CT 賞

部会 CT 賞受賞者 藤岡沙都子(慶應義塾大学)  
「粒子・流体プロセス部会関連国際シンポジウムの立ち上げおよび運営に関する顕著な貢献」

この度は部会 CT 賞をいただきまして誠にありがとうございます。1988年に始まった歴史ある日独気泡塔シンポジウムをリニューアルさせたMMPE(International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering)の第1回開催(金沢)に微力ながらお手伝いさせていただきましたことを大変嬉しく思っております。会議は無事に成功し、ハンブルクでの第2回開催、再び日本で開催予定の第3回と、発展していく過程に関わらせていただけて感謝しております。お世話になりました先生方に心より御礼申し上げます。今後も微力ながら本会議の発展に尽くして参りたいと思っております。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



(慶應義塾大学 藤岡沙都子)

## 2014年度 秋季大会部会幹事会報告

日時:2014年9月18日(木)12:00-12:50

場所:化学工学会第46回秋季大会(九州大学)

B 会場

出席者(順不同、敬称略):

梶原、太田、後藤、大川原、加藤、本間、野田、福井、岩田、西岡、吉本、加納、鈴木、鷺見、所、名嘉山

1.前回幹事会議事録の確認(部会長)

前回幹事会(岐阜大学で開催) 議事録を確認し、了承された。

2.各分科会への予算配分について(部会事務局)  
資料に基づき本年度の分科会への予算配分に関して説明があり、配分額が了承された。化学工学会本会員ではない部会会員への会費請求をまだ行っていないため、分科会所属数の変動および会費納付状況による増減は、次年度で相殺することとした。

3.部会賞について(太田副部会長)

資料に基づき本年度の部会賞の状況が説明され、了承された。

4.学会各種表彰推薦について(部会長)

化学工学会本部主催の部会活動功労賞(部会CT賞)に、粒子・流体プロセス部会推薦の藤岡沙都子先生(慶應義塾大学)の受賞が報告された。また、部会賞のうち、化学工学会賞へ応募できるものについては、本人の希望のもと積極的に推薦していくことが説明された。

#### 5.部会セミナー・総会について(後藤副部会長)

後藤副部会長より平成27年度部会セミナーの開催案が説明された。化学工学会第80年会(芝浦工業大学)の前日、2015年3月18日に昨年度と同じ形で行うこととした。第80年会の情報をまとめて、改めて案内されることが了承された。

#### 6. IWPI2015の開催について(鈴木幹事)

資料に基づき IWPI2015(Canik Basari 大学, Samsun, トルコ)の開催、参加・講演募集について説明がなされた。

#### 7.名誉会員推薦について(部会長)

名誉会員推薦について説明がなされた。10月末を目処に推薦したい会員がいれば部会長に連絡することとした。

#### 8.その他

##### 8.1 若手・女性研究者育成プロジェクト(粒子・流体プロセス部会主催)(鷲見企画幹事)

今後の運営について議論がなされ、今後検討を続けることとなった。

※参加対象が博士課程学生などであるので支部等と連携して地域で行うような運営がいいのでは。

※運営するなら、担当者に業務が集中するのを避けるなど、継続可能な体制を考慮したほうがよい。

##### 8.2 第6回ファインバブル技術講習会(粒子・流体プロセス部会共催)の案内がなされた。(本間幹事)

##### 8.3 ニュースレター(加納幹事)

ニュースレター執筆依頼について従来通り(分担、日程)と説明がなされた。

##### 8.4 分科会所属情報の確認

分科会管理名簿との整合を確認するため、事務局管理名簿の分科会所属情報を年1回程度、事務局から各分科会へ送付することになった。

(事務局・名嘉山祥也)

## 第46回秋季大会シンポジウム報告

### 【S-21 先端粉粒体プロセス技術の新展開】

第46回秋季大会では、粉体プロセス分科会と流動層分科会の共催で、シンポジウム「先端粉粒体プロセス技術の新展開」を行いました。微粒子、粉粒体、エアロゾルを取り扱う粉粒体プロセスは、化学工業分野のみならず幅広い分野で用いられ

る重要なプロセスであることから、微粒子、粉粒体の生成と機能化から、計測・特性評価、そのハンドリングとプロセスに至るまでを対象とし、基礎から応用まで最近の先端的な研究成果を募りました。

その結果、秋季大会初日および2日目の2日間にわたって1件の招待講演と34件の一般講演から成るシンポジウムを開催できました。

1日目午前は、粉砕を利用した粒子合成や環境プロセスに関する研究や離散要素法による粉体操作の解析などシミュレーションに関する成果などが報告されました。午後からは、わが国最大規模の加圧流動床複合発電プラント(PFBC)の紹介・運転状況に関する招待講演に引き続き、流動層を用いた分離プロセスや海水淡水化プロセス、熱回収プロセスに関する成果報告がなされました。2日目は、コロイドや生体と粒子の相互作用、ナノ粒子ハンドリング、機能的ナノ粒子の合成に関する講演などが行われました。

本シンポジウムの企画意図通り、基礎技術から実プロセスへの応用事例まで幅広い分野の研究成果の発表と活発な討論が繰り返され、成功裡に終えることができました。

なお、本シンポジウムで学生が口頭発表した発表を座長、オーガナイザー、両分科会役員で厳正に審査した結果、2件の発表をプレゼンテーション賞候補として推薦致しました。

末筆ながら、シンポジウムで活発な討論を行って頂いた参加者の皆様、賞審査にご協力頂いた座長・役員の皆様にご挨拶申し上げます。

(オーガナイザー・福井国博)

### 【S-22 高度化するミキシング技術】

近年の液体混合に関する研究は、カオス混合等の混合現象を解明しようとする試みと、液体混合の新たな応用を志向した試みとに分類されています。ミキシング技術分科会では、これらを相反するものとして捉えず、互いに影響し合う事により新たな展望が得られるという見地に立ち、一現象の解明から新たな応用までという副題を付記した表題シンポジウムを開催しました。

展望講演では、福岡大学教授・松隈洋介先生より、長年研究を続けて来られた格子ボルツマン法を用いて、複雑形状流路内の二相流に対するシミュレーション実施例をご紹介いただきました。現象解析が困難な、複雑な形状に対する格子ボルツマン法の工学的な適用可能性を示されました。一方、もう一件の展望講演では、みづほ工業株式会社常務取締役技術開発担当の高木和之博士より、乳化を対象として最近の応用事例に関する

ご講演をいただきました。化粧品業界を中心に、実績のある乳化方法および乳化装置について概観していただくとともに、三相、膜、超音波乳化など新しい技術を、さらには真空乳化装置の変遷から展望までお話しいただきました。一般講演も同様の構成として、現象の解明という副題が示すシミュレーションおよび流脈線を活用した解析法が、さらに、新たな応用としては、特殊混合や特殊翼、固液攪拌に関する研究が、併せて 22 件紹介されました。双方の観点から活発な議論がなされ、ミキシング技術の将来に大きく貢献するシンポジウムとなりました。

(オーガナイザー・堀江孝史)

#### 【S-23 気泡・液滴・微粒子分散工学 2014】

気泡・液滴・微粒子分散工学分科会主催によるシンポジウム「気泡・液滴・微粒子分散工学 2014」が、第 46 回秋季大会の初日(17 日)および二日目(18 日)の午前中に行われました。展望講演 1 件、受賞講演 1 件、一般講演 23 件の合計 25 件の発表があり活発な議論が行われました。

展望講演は「気泡・液滴分散系における計測技術とその応用」と題して静岡大学・齋藤隆之氏にご講演を頂きました。気泡・液滴分散系の最新の計測技術を紹介頂くとともに、自ら考え実行し、試行錯誤を重ねながら世界一の技術を築き上げることが大事であるというメッセージを頂きました。

受賞講演は、化学工学論文集の優秀論文賞を受賞した住友化学のダール アビナーブ氏から、気泡・液滴・微粒子分散工学で必要とされる界面の数値計算法についての講演がありました。

一般講演の研究対象は、気泡関連が 11 件で最も多く、次いで液滴の 8 件、固体粒子が 4 件となっています。展望講演、受賞講演をはじめ本シンポジウムでの講演内容は、実験、数値シミュレーション、計測技術の開発、数値解析技術の開発、分散工学の応用と多岐にわたると共に、バランスも非常によく参加者にとって有意義なものであったと考えています。次年度も同様なシンポジウムを企画する予定になっておりますので、粒子・流体プロセス部会会員の皆様の積極的なご参加を期待しています。

最後に、オーガナイザーを代表して、シンポジウムを盛り上げていただいた発表者、参加者の皆様、大会の企画を行っていただいた部会幹事の皆様、秋季大会実行委員会の皆様にこの場を借りて感謝を申し上げます。

(オーガナイザー・本間俊司)

#### 【S-24 熱物質流体工学の最前線 2014】

熱物質流体工学分科会の主催で、第 46 回秋季大会の初日(9 月 17 日)にシンポジウム「熱物質流体工学の最前線 2014」を開催しました。展望講演 1 件、招待講演 1 件、受賞講演 1 件、一般講演 19 件の合計 22 件の発表があり、朝早くから遅い時間まで終日盛況の中、活発な議論が行われました。

展望講演では、京都大学教授・山本量一先生より、「生物・生体組織の物理学的モデリング」と題してご講演をいただきました。先生ご自身が取り組まれている「自己泳動する微生物のモデリング」および「上皮細胞組織の成長・癌化・修復のモデリング」の 2 つの適用事例を中心に、医学・生物学分野へと展開する計算科学の新しい潮流についてご紹介いただきました。

招待講演では、株式会社 MCHC R&D シナジーセンター・石羽恭氏より、「物質移動を伴う流体シミュレーション技術の適用と開発」と題してご講演をいただきました。化学メーカーにおいて、流体シミュレーション技術が流れの状態を評価するだけでなく、相間の物質移動から反応に至るまでの現象を考慮した反応器シミュレータの技術として活用されるツールとなっていることをご紹介いただきました。

受賞講演では、化学工学会英文誌の優秀論文賞を受賞した埼玉大学准教授・本間俊司先生より「体積変化を伴う固化プロセス計算のためのフロントラッキング法」についてご講演がありました。

一般講演においては、移動現象が幅広く網羅され、数値計算研究から実験研究に至るまで特にスケールの小さな流れに着目したものが多く見受けられました。また、一般講演のうち学生の発表 12 件は、座長、オーガナイザーおよび分科会役員等が分担して学生一人につき三名で厳正に審査し、当シンポジウムよりプレゼンテーション賞一名を推薦しました。

(オーガナイザー・大川原真一)

#### 【S-26 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開】

粒子・流体プロセス部会、熱工学部会、反応工学部会の共催で、第 46 回秋季大会の 2 日目(9 月 18 日)にシンポジウム「プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開」を開催しました。展望講演 2 件、一般講演 10 件の合計 12 件の発表がありました。

展望講演では、九州大学教授・白谷正治先生より、「プラズマ化学の拓く新世界：半導体からバ

イオまで」と題してご講演をいただきました。低温非平衡プラズマが、広範なデバイスにおけるナノ材料・ナノ構造の作製に中心的役割を果たすこと、医療・農業分野においても応用研究が盛んに行われていること等をご紹介いただきました。

また、日本電子株式会社・小牧久氏より、「粉末改質のための研究用高周波誘導熱プラズマ装置」と題して展望講演をいただきました。高周波誘導熱プラズマと DC プラズマを重畳させた構造の Hybrid プラズマを用いることで、ナノ粒子合成や球状化など様々な最先端材料プロセッシングが可能となることをご紹介いただきました。

一般講演では、材料プロセッシングから汚染物質処理、医療技術への応用に至るまで幅広い議論がなされました。

(オーガナイザー・大川原真一)

#### 2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 (奨励賞・プレゼンテーション賞)決定

化学工学会第 46 回秋季大会における粒子・流体プロセス部会関連企画のシンポジウム「S-21 先端粉粒体プロセス技術の新展開－粒子設計、機能化、計測評価と単位操作－」、「S-22 高度化するミキシング技術－現象の解明から新たな応用まで－」、「S-23 気泡・液滴・微粒子分散工学 2014」、「S-24 熱物質流体工学の最前線 2014」、「S-26 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開」での発表を対象として、シンポジウム賞(奨励賞とプレゼンテーション賞)が選考されました。奨励賞は、審査を希望する 37 歳未満の正会員の発表を対象とし、プレゼンテーション賞は、社会人博士課程在籍者を除く学生会員による全発表を審査対象としました。厳正な審査の結果、下記の方々の受賞が決まりました。

#### ○奨励賞

該当なし

#### ○プレゼンテーション賞

・水野 寛之(東京大学)

「流動層型蒸発器を海水淡水化プロセスに適用した際の非流動化に関する検討」

・栗山 雄太(大阪府立大学)

「酵母細胞への高分子ナノ粒子の付着・取込現象の評価」

・林 萌夏(横浜国立大学)

「層流攪拌槽内における単段および二段パドル

翼の流脈面構造の定量化」

・孫 暁松(東京大学)

「固気液三相流の数値解析のための DEM-VOF 計算手法の開発」

・谷口 一平(東京工業大学)

「粒径および溶存イオン種の組み合わせが懸濁微粒子の熱泳動に及ぼす影響」

受賞者の皆様、誠におめでとうございます。

なお、「プレゼンテーション賞」の受賞者には、賞状ならびに副賞としての額縁が贈呈されます。最後になりましたが、審査にご協力を頂きました各位に紙面をお借りし、厚く御礼申し上げます。

(担当・本間俊司)

#### 2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 (フロンティア賞)審査状況報告

化学工学論文集、*J. Chem. Eng. Japan* など化学工学に関連する国内外の学術雑誌に掲載された論文のうち、本部会会員が著者となっている特にフロンティア性の高い優秀な研究論文に対して与えられる賞です。本賞は 2008 年度に創設され、これまでに 5 件の論文著者に授与されています。

2014 年度は、2013 年 9 月より 2014 年 8 月までに掲載された論文を対象として、9 月 26 日締切で募集を行いました。その結果、5 件の応募があり、各分科会から選出された選考委員で構成される選考委員会で現在審査を行っている状況です。

本ニュースレターが発行される頃には受賞論文が決定されると思います。本賞の受賞論文は、2015 年 3 月の年会前日に行われる予定の部会総会・部会セミナーで表彰式と受賞講演が行われる予定です。

今後も本賞への皆様からの積極的なご応募をお待ち致しております。

(担当・福井国博)

#### 2014 年度粒子・流体プロセス部会賞 (動画賞)の状況

本年度動画賞は、化学工学会第 46 回秋季大会(九州大学)で行われた下記シンポジウム

S-21 先端粉流体プロセス技術の新展開－粒子設計、機能化、計測評価と単位操作－

S-22 高度化するミキシング技術－現象の解明から新たな応用まで－

S-23 気泡・液滴・微粒子分散工学 2014

S-24 熱物質流体工学の最前線 2014

## S-26 プラズマプロセッシングによる化学工学の新展開

において発表された内容を対象に作品を募集しました。10月14日に応募が締め切られ、現在、審査委員会が結成されて厳正な審査が行われているところです。動画賞は、研究、技術、教育の各部門で授与されます。受賞作品は本年11月末頃までを目途に決定し、公表される予定です。授賞式ならびに作品鑑賞会は、化学工学会第80年会時に行われる予定です。また、受賞作品は受賞者の同意が得られたものについて部会HPにリンクしますので、多くの会員の皆様にご覧頂ければ幸いです。

(担当・吉本 誠)

### 2013年度粒子・流体プロセス部会賞 (技術賞)状況報告

現在、粒子・流体プロセス部会技術賞の募集を行っております。自薦他薦は問いません。  
(応募締切:11月21日(金))応募用紙はホームページ

<http://www2.scej.org/partluid/data/hyosho/Gijutsu/gijutsu.php>からダウンロードできます。

皆様からの多数のご応募をお待ちしております。

(担当・野田玲治)

### 平成27年度部会セミナー

粒子・流体プロセス部会全体行事である部会セミナーは、化学工学会の行事などから独立した日程での講演会開催、化学工学会年会の前日の講演会開催、化学工学会秋季大会のシンポジウム(部会シンポジウム)として開催など、いくつかの形式で開催されてきました。最近では化学工学会年会の前日に開催されていましたが、大阪大学にて開催された第78年会では当部会が国際シンポジウムをオーガナイズしたことから、岡山大学で開催された第45回秋季大会のシンポジウムとして開催いたしました。

このように、これまで部会セミナーが年度ごとに開催形態が変わっていたことから、この年に部会セミナーのあり方が部会幹事会にて話し合われ、  
○ 年会の前日に、年会開催地にて開催する。  
○ 部会セミナーだけでなく、部会総会も合わせて開催する。

こととなりました。部会総会を開催するので、その際に部会賞各賞の授賞式を行うこととしました。授賞式があれば、受賞記念講演を行うのが通例で

すが、化学工学会年会では部会の行事が開催できないので、

○ 部会セミナーとして、各賞受賞講演会とすることになりました。これらの内容で、昨年岐阜大学にて開催された第79回年会の前日に、岐阜駅前の岐阜大学サテライトキャンパスにて、2014年度部会セミナーが開催されました。

九州大学での第46回秋季大会会期中に開催された部会幹事会において、次回の部会セミナーも、2014年度を踏襲し、以下の内容で開催することが決定されました。

### 【2015年度部会総会・部会セミナー概要】

・日時:平成27年3月18日(水)

14:00~17:00

・場所:化学工学第80年会会場周辺

・スケジュール:

(11:30~13:30 部会幹事会)

14:00~15:00 部会総会

(各賞授賞式を含む)

15:00~17:00 部会セミナー(講演会)

奨励賞受賞者講演

フロンティア賞受賞者講演

技術賞受賞者講演

動画賞受賞者講演および動画上映

以上

今後開催場所等詳細が決まりましたら、電子メールにて皆様にお知らせいたします。まずは、第80年会前日に、部会セミナーへのご参加を予定していただけますようお願いいたします。

(担当・後藤副部長)

### 分科会からのお知らせ

#### 【ミキシング技術分科会】

#### 各地区ミキシング技術サロンのお知らせ

##### (1)第24回関西・東海地区

日時:10月31日(金) 15:00~

場所:名古屋工業大学 校友会館

「攪拌槽の構造設計から運転検査まで」

(有)ケミックス 寺本正充 氏

「2液性樹脂混合装置および吐出装置について」

日本ソセー工業(株) 森川謙博 氏

##### (2)第23回東日本地区

日時:11月7日(金) 14:30~

場所:横浜国立大学物質工学科エネルギー工学棟

「ポピュレーションバランスに基づく晶析プロセス

解析ソフト-gCRYSTAL」 ピーエスイージャパン

「攪拌装置シミュレーションソフトウェア-VisiMix-」

江守商事株式会社

「粒子・流体計測装置」 日本カノマックス  
**(3)第 19 回九州地区**

日時:12月22日(月) 13:00~

場所:福岡大学 文系センター4階 第4会議室  
「界面と表面力の重要性～混相流と細胞を中心に～」 福岡大学 新戸浩幸氏  
「界面活性剤による抵抗低減流れと省エネルギー流体輸送技術への応用」 山口大学 佐伯隆氏  
「攪拌研究について思うこと」

東京工業大学 名誉教授 小川浩平氏  
(分科会代表・加藤禎人)

**【気泡・液滴・微粒子分散工学分科会】**

本年4月より新しい体制で分科会活動を開始しました。例年通り、積極的な活動をおこなっています。まず、5月17日に気液固分散工学ニュースレターを発行しました。内容は下記アドレスよりご覧頂けます:

[http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/BUDROPE\\_NL11\\_140521.pdf](http://www.applc.keio.ac.jp/~terasaka/BUDROPE/BUDROPE_NL11_140521.pdf)

秋季大会においては、シンポジウム「気泡・液滴・微粒子分散工学 2014」を企画した他、恒例の気液固分散工学サロンを初日(17日)の夕方に開催しました。第11回となる今回は、ライオン株式会社の西尾拓氏に「通気量が多い気液固分散の通気攪拌技術の開発と工業化概要」と題し講演を頂きました。西尾氏は、本技術で2008年度の粒子・流体プロセス部会技術賞を受賞されています。攪拌技術でありながら、気液固分散との関連も深く、参加者にとっては非常に興味深い内容で、講演後のディスカッションも活発に行われました。

秋季大会直後の9月24日~27日に、ドイツ・ハンブルク・Crowne Plaza Hotelにおいて2nd International Symposium on Multiscale Multiphase Process Engineering(以下、MMPE)が開催されました。MMPEは本分科会が中心となり2011年に第1回を金沢で開催し、今回が2回目となります。日本から58名、ドイツから56名、その他の国より10名、合計124名が参加しました。日本からは日本学術振興会のオープンパートナーシップ支援によって若手研究者7名を派遣しました。25件の口頭発表と70件を超えるPoster発表があり、日独を中心にした気泡・液滴・微粒子分散に関連する研究が多数公開されました。大変活発な議論が行われ、参加者にとって極めて有意義なシンポジウムとなりました。次回は2017年5月に富山での開催が決まりました。部会会員皆様の参加をお待ちしています。

11月4日には分科会が協賛する、第6回ファイ

ンバブル技術講習会～ファインバブル技術の最新動向と計測技術の実演～が、慶應義塾大学日吉キャンパス来往舎シンポジウムスペースにて行われました。講演5件と6社による企業展示に対して58名の参加者があり、活発な議論が行われました。来年は関西地区での開催を計画しています。

今後、分科会が協賛、共催する行事は以下のとおりです。

<第2回混相流に関する最先端科学技術シンポジウム>

日時:2014年11月14日(金) 12:45~18:00

会場:東京大学浅野野キャンパス 武田先端知ビル 武田ホール

講演:

・Front-Tracking法による複合液滴生成シミュレーション

埼玉大学 本間俊司 氏

・新しい粉体シミュレーション手法の開発と将来展望

同志社大学 日高重助 氏

・最新の粉体シミュレーション技術の紹介と産業応用

東京大学 酒井幹夫 氏

・分散・塗布・乾燥における粒子系の構造形成

東京大学 山口由岐夫 氏

・特殊なノズルを装着したスプレードライヤーによる機能性ナノ粒子の設計と製剤への応用

名古屋市立大学 尾関哲也 氏

・キャピラリー電気泳動を用いる細菌に特異的なDNAアプタマーの高速選抜法の開発

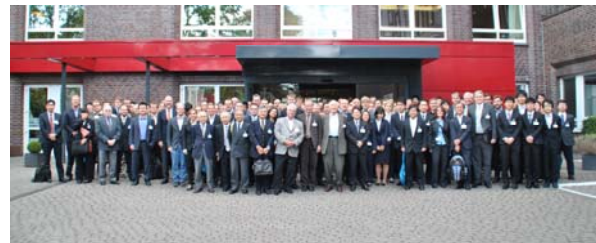
埼玉大学 齋藤伸吾 氏

・圧力振動場における粘弾性流体中の気泡運動

名古屋工業大学 岩田修一 氏

Web: <http://dem.t.u-tokyo.ac.jp/yayoi.html>

皆様の積極的な参加をお待ちしております。



2nd MMPEの集合写真

(分科会代表・本間俊司)

**【流動層分科会】**

＊ ＊粒子・流体プロセス技術コース2014(第28回流動層技術コース) 報告 ＊ ＊

粒子流体プロセス技術コース2014(第28回流動層技術コース)は8月28日(木)~29日(金)、中央大学にて行われました。今年度は19名とたくさんの方にご参加いただきました。1日目は初心者向け流動層解説と簡単な演習、2日目は基本実習ならびに追加実習を行いました。また、新潟大学、九州工業大学、鹿児島大学のサテライト実習に1名ずつの参加がありました。来年度は2015年8月27日(木)~28日(金)に開催予定、募集は6月から開始する予定です。詳細は

<https://sites.google.com/site/atwfbtc/>をご参照ください。

**\*\*第20回流動化・粒子プロセッシングシンポジウム 案内\*\***

第20回流動化・粒子プロセッシングシンポジウムが2014年12月11日(木)~12日(金)に加計学園創立50周年記念館(岡山市北区理大町1-1)で開催されます。反応工学会反応装置・プロセス分科会とのジョイントセッション(第9回反応装置・プロセスシンポジウム)も組み立てられ、口頭発表、ポスター発表ならびに招待講演が行われます。発表詳細内容や参加申込みは、

<http://www.mech.ous.ac.jp/fb20/index.html> をご参照ください。また、問い合わせ先は、FB20実行委員会事務局(Tel: 086-256-9574、E-mail: fb20@mech.ous.ac.jp)です。

(分科会代表・野田玲治)

### 【熱物質流体工学分科会】

2014年度分科会行事のご報告とご案内をさせていただきます。

#### <熱物質流体工学セミナー2014>

例年通り、化学工学会秋季大会前日の9月16日に、福岡大学文系センター棟2階・第1会議室にて熱物質流体工学セミナー2014を開催しました。本年度は、京都大学・准教授谷口貴志先生より「高分子流体のマルチスケールシミュレーション」と題して、また、出光興産株式会社・坂倉圭氏より「粉体攪拌型反応器の数値解析」と題してご講演をいただきました。産学それぞれの視点からのご講演は大変対照的かつ興味深く、活発な議論がなされました。来年度以降も同様の日程で当セミナーを開催する予定ですので、是非、ご参加ください。

#### <化学工学会第46回秋季大会シンポジウム S-24 熱物質流体工学の最前線 2014>

本号にて既にご報告した通り、大会初日9月17日に九州大学・伊都キャンパスにてシンポジウムを開催しました。

### <International Workshop on Process Intensification 2015>

本号にも以下に詳細なご案内がありますが、本分科会が中心となって運営してまいりました国際シンポジウム International Workshop on Process Intensification (IWPI) が次回は2015年4月にトルコで開催されます。皆様の参加をお待ちしております。

#### <熱物質流体工学分科会総会>

芝浦工業大学・豊洲キャンパスにて2015年3月19日~21日の日程で開催される化学工学会第80年会の会期中に分科会総会を開催する予定です。

(分科会代表・大川原真一)

### 【粉体プロセス分科会】

当分科会は、秋季大会のシンポジウムを主たる行事として運営しております。平成26年度は、九州大学において開催された第46回秋季大会にて「先端粉粒体プロセス技術の新展開」と題したシンポジウムを流動層分科会と共催致しました。流動層分科会との共催ということもあり、例年に増して盛況なシンポジウムとなりました。シンポジウムの詳細は別項で報告させていただいております。

2014年7月4日北海道立総合研究機構で行われた「2014年度微粒子工学講演会」、11月5日東北大学多元物質科学研究所で行われた「第1回機能性粉体プロセス研究会」を共催致しました。当分科会では、粉体プロセスに関するシンポジウムや研究会等各種行事に対して積極的に共催、協賛しておりますので、共催・協賛のご依頼がございましたら、幹事までご一報ください。

また、2012年度から開始した分科会独自行事「粉体プロセス工学セミナー」を2014年度は開催すべく現在計画を立案中です。詳細が決まりましたら案内させていただきます。

(分科会代表・福井国博)

### 国際会議のお知らせ

#### プロセス強化に関する国際ワークショップ (IWPI2015)

IWPI (International Workshop on Process Intensification) 2015 が以下の通り開催されます。

日程: 2015年4月27日(月)~30日(水)

場所: Canik Basari 大学, Samsun, トルコ

講演申込締切: 2014年11月15日

Web: <http://iwpi2015.basari.edu.tr>

参加費事前: 一般€400, 学生€200

(2015年1月30日まで)

本ワークショップは化学工学会粒子・流体プロセス部会・反応工学部会・SIS部会が共催します。

粒子・流体プロセス部会から古川直樹氏がキーノート講演を行います。是非、奮ってご参加ください。詳細は Web サイトをご確認ください。

(担当・鈴木 洋)

**若手・女性育成プロジェクト  
「若手研究者・技術者を対象とした工場見学  
および交流会((株)ダイセル)開催案内**

本交流会は、若手研究者および技術者の育成を図るため、企業で活躍中の若手・女性技術者と直接交流することによって、男女を問わず卒業後のキャリアパスに対するイメージアップを図ることを目的としています。また、企業の若手・女性研究者相互の対話を通じて、本分野の研究の活性化と育成を支援する企画です。

多数の方のご参加をお待ちしております。

対象:若手研究者および技術者、PD、学生

日程:平成 27 年 1 月 9 日(金)

場所:株式会社ダイセル衣掛クラブ

参加費:講演会 無料

懇親会:3,000 円(学生無料)

当日のスケジュール:

13:00 受付開始

13:30 講演

「ソフトマターの流動を解明したい！」

(神戸大学応用化学科 日出間先生)

14:15 企業の管理者による講演

「企業が求める若手、女性人材」

((株)ダイセル 亀井 登様)

14:50 企業の若手・女性技術者からの話題提供

「ナノ材料の工業化技術への取り組みを通じて(仮題)」

((株)ダイセル 渡邊 進様)

「企業における研究開発とは」

((株)ダイセル 新木 直子様)

15:30 網干工場概要とダイセル式生産革新

「統合センターでの生産革新の取り組み」

((株)ダイセル 田渕 文晴様)

16:10 網干工場および統合生産センター見学

17:30 交流会

19:30 終了

参加申し込み:

12 月 22 日(月)までに下記へお申込みください。

早稲田大学理工学術院 准教授 所千晴

E-mail: tokoro@waseda.jp

TEL: 03-5286-3320

FAX: 03-5286-3491

(若手・女性育成プロジェクト担当・所千晴)

**部会への入会方法**

■化学工学会の個人会員(正会員、学生会員)の方は、化学工学会HP(<http://www.scej.org/>)の「各種申込>部会入会」より、お申し込み下さい。

■化学工学会の法人会員、個人会員でない法人あるいは個人の方で、粒子・流体プロセス部会の賛助会員、特別個人会員入会をご希望の方は、下記、粒子・流体プロセス部会事務局までご連絡下さい。

(詳細は<http://www2.scej.org/partluid/nyukai.php>)

■分科会入会希望は、

<http://www2.scej.org/partluid/sub-nyukai.php> を参照の上、各分科会へご連絡下さい。

■化学工学会会員の方のeメールなどの変更は、化学工学会ホームページで行えます。

■部会賛助会員、特別個人会員の方のeメールなどの変更は、事務局までお知らせ下さい。

Phone/Fax : (092)802-2756

E-mail : [scej.fpp+membership@gmail.com](mailto:scej.fpp+membership@gmail.com)

(事務局・名嘉山祥也)

**部会ニュースレター編集後記**

慶応義塾大学の藤岡沙都子先生が部会 CT 賞を受賞されました。この受賞は、粒子・流体プロセス部会として初めての受賞であり、たいへん嬉しく思い、藤岡先生にもニュースレターにご執筆いただきました。今後もこのニュースレターにてご報告や今後の予定をお知らせしていきたいと思っております。また、部会会員の皆様からのご寄稿や、ご意見等も頂戴できれば幸いです。

(ニュースレター担当・加納純也・大川原真一)